



ビオトープ・ニュース034

発行日 2011/09/25

発行：日本ビオトープ管理士会 徳島支部
 事務局：徳島市山城町東傍5-281 新弘測量設計㈱内
 事務局長：東條芳顕 TEL：088-622-5688

■ビオトープ・サロン 減び行く身近な生きものたち

今号は、減び行く身近な生き物たち第2弾として、スズメを取り上げます。図らずも、ブログ-ビオトープ気延の里の話とコラボになりました。みなさんも身近な自然の変化に気づかれていますのでは？ (編集局)

【スズメが消える？…野性の世界の住宅事情と食料事情】

2010年3月、「日本のスズメが10分の1に激減…」ということでも話題になり増した。「やはり、そうなのか…」と思った方はたくさんいるのではないのでしょうか？

朝、スズメの鳴き声で目を覚まし、秋にはスズメ囀りの爆音に驚かされたり、ほとんど全ての田んぼにはスズメよけの「かかし」や「テープ」が張り巡らされたりしていました。しかし、最近はそのような田んぼはほとんど見かけなくなりました。その必要がなくなったほどスズメの個体数が減少したという証といえるでしょう。

いくつかの研究データから、現在のスズメの個体数はここ20年足らずの間に最大80%減、50年前とでは90%減にまで激減しているそうです。ただ、推定結果であり、信憑性や科学的裏付けは疑問の余地が



残るとのことですが、減少していることに疑いの余地はなさそうです。スズメが減少した原因として、次のようなことがあげられています。

1. 建築様式の変化から巣づくりの場所がなくなった
2. 未舗装の小道や空き地が減り餌場の草地が減った
3. 町にカラスが増え雛の生存率が減った
4. コンパインの普及で落ち穂が減り冬を越せない

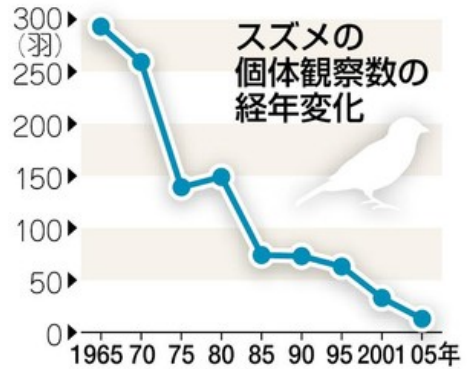
などがあげられています。

しかし、2006年に北海道各地で突然スズメが姿を消し、農家は「田畑の害虫が増えたら困る」と案じたり、愛鳥家から「餌台に全く来ないがなぜか」との問い合わせが寄せられたり…と話題になりました。

スズメの減少は日本だけではないようで、ロンドンでもこの5年で半減、過去25年で9割も減ったが原因不明とのこと。英政府は「人里を好むスズメが消えたのは、人間にとってよくない環境変化が進んでいる兆候」と、原因究明に乗り出したそうです。

今回、話題になったのはスズメですが、他の野鳥も減少傾向にあるはず。また、野鳥に限らず、様々な野生の生きものが姿を消していることを、今一度考えてみる必要がありそうです。

写真左上：水抜きパイプで巣づくりする番／写真左下：コンクリート擁壁がスズメのマンションに？ 雨が降れば排水で巣は流出する。(写真：気まぐれ日記)



※自由学園(東京都東久留米市)バードセンサス調査から

■ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記！～ブログ-ビオトープ気延の里～

寄稿：石井町のわんぱくおじさん(ビオトープ気延の里)

【～スズメのおやど～ 9月11日】

9月11日 晴れ アメリカのテロから10年、大震災から半年。平和な石井町、気延の里がいつまでも、と願いつつ。

スズメやセキレイのお宿にどうかと思ひ、孟宗竹を切ってきて穴を開けそれをハウスの横にくくりつけました。というのは最近、スズメの数が減少しているそうです。原因はいろいろ言われていますが、その一つがスズメの住宅難だそうです。つまり、建築様式の変化で人家に隙間がなくなってしまい、スズメの巣を掛けるところが少なくなって、住宅難に陥ってしまった、と。

専門家の方々には、テリトリーの関係があって、全ての穴に入って営巣するような、マンションのようにはならない！と。さてさて、来春が楽しみです。

(編集局から一言：なかなかのアイデアですね。「すすめの長屋」といったところでしょうか？ テリトリーというより干渉距離が適切かもしれません、「プライバシー」ということかと。造園学の研究で「ベンチの設置間隔はどのくらいが適当か」とのテーマだったかと思いますが、デートスポットになっている防潮堤に腰を下ろすカップルの間隔は計ったようにほぼ等距離だったそうです。さて、スズメのプライバシー実験や如何に！？ それから、雨水が入りにくい角度にするとか、水抜き穴を抜くとか、ヘビが登れなくするとか、スズメに気に入られる工夫が必要かも？)



■ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう!

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集局)

【施工部門1級記述問題：解説は次号で紹介】

問034：

かつて沼であったが、現在は埋め立てて都市公園の芝生広場になっている場所に、付近の用水路から一年中引水して湿地ビオトープを復元することになりました。市民の公園として利用を許し、観察会などの環境教育に利用する事が予定されています。施工及びその後の管理・利用にあたっての留意点4つ以上、400字以内であげなさい。

■前号033の解説

- ・水の維持→長期的対策としては、地下水くみ上げ規制など、湧水が復活する対策を行う。
- ・生息環境の維持→短期対策としては、湿地や池の周囲の植物の種子・根などの保存、底泥の中の底生生物などの生物が生息可能な状態を可能な限り確保するために、最小限の導水を行う。
- ・現在生息している生物の保護と隔離→短期的対策・遺伝子攪乱防止として、近くの場所に、一時的に同様の水辺環境を創出し、隔離した状態で保護する。
- ・移入種対策→近年に移入されると見られる生物、外来種などが発見されたら処理する。

※自然環境の保全に関わる方には、基礎知識を修得するためにもお勤めで、是非とも取得していただきたい資格です。

■ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報

記者：榎本幸実(会員)

【特定外来生物が生育域拡大】



ビオトープ・タイプ：河川

規模：60m×20m

環境特性：高水敷の耕作放棄地で、不法投棄ゴミの散在とクズ群落。

周辺土地利用：農業地帯に工場や事業所が点在。

撮影年月日：2011年8月30日

場所：不動東町五丁目鮎喰川左岸県道41号線下流の潜水橋北詰



ゴミの不法投棄が後を絶たない場所であり、冬枯れの時期は不法投棄のゴミが散在している。春から秋にかけては一面をクズが覆い尽くし、ゴミを包み隠している。昨年までは、クズしか目にかからなかったが、今年の夏はクズを被圧してアレチウリが繁茂しているのを確認。近隣のマダケ群生地にも侵入し、これをも覆う勢いで生育域を拡大している。

撮影後、台風による洪水でクズとともに一掃された状況となったが、今後も注視する必要がある。上流域にも生育地が存在すると推察するが、河川域の外来種問題は、上下流はもとより、流域全体で一斉に取り組まなければ効果はなく、その解決策は極めて困難な状況にある。アドプト制度の効果的な運用に期待したい。

■ビオトープ・ナビ Q&Aコーナー

(編集局)

【Q：アイガモの放鳥は問題ないのですか？ AHさん】

「アイガモで水草除去」という新聞記事に目が止まりました。調整池に繁殖した外来アゾラという水草防除として、ある研究機関の助言で2009年から四つの池に合計47羽。「増水時に流されたり、歩いて移動したりして、各地で水質浄化に貢献している」とのこと。これって問題ないですか？

【A：自然環境中への放鳥は原則的に禁じるべきです！】

アイガモは家禽で、フタを野に放つに等しいこと。役目を終えたら直ちに捕獲して、人間がきちんと処分(食)すべきです。放置すれば、やがて希少な水草までも食べ尽くすでしょう。そして、地域の生態系にも悪影響が及び恐れがあります。外来アゾラはアイガモの餌として水田に導入、アイガモ農法の歪みが生育地拡大の要因の一つとも。沖縄のマングースは、ハブ退治の方法を相談された当時の著名な動物学者が持ち込んだそうです。このマングース以外にも、人間の都合で持ち込まれた生きものが外来生物という汚名をつけられ災難を被っています。全ては人間の安易な行動の結末です。

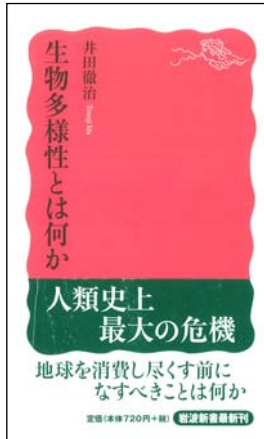
■ビオトープ・サロン

書籍紹介コーナー

(編集局)

【生物多様性とは何か】

著者：井田徹治／発行：株式会社 岩波書店
 224頁／定価：720円／2010年6月18日第一刷



クロマグロの大量消費は何が問題なのか？

人類を養う絶妙な生物ネットワークの破壊が進んでおり、生物多様性条約もその歯止めになっていない。今なすべきことは何なのか。

世界で最も多様性に富み、脅威にさらされているホットスポットの現状と、保全のための新しい仕組みをレポートし、人間と自然との関係修復を訴える。

■編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報はもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。ふるってご参加ください！ 編集局

【E-mail：kanv@nifty.com URL：http://biotopetokushima.yu-yake.com】